

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 (2) 社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけさせるとともに、創造性にあふれ明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	◇学習指導(教務)	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者アンケートから「授業の教え方や説明がわかりやすい先生が多い。(生徒 肯定的評価 83%)」 授業評価アンケートから「質問や発言がしやすい雰囲気であり、主体的に取り組みやすい(肯定的評価 88%)」 「ホワイトボードの使い方が良い。(肯定的評価 91%)」 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 主体的・対話的な学習態度を育てます。 (2) ICT機器を活用し、授業への興味・関心を高めます。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 両キャンパスごとに管理職、企画委員会を中心にして、各教科学科と学年会と連携をした組織。 管理職、教務部を中心として両キャンパス統一的に進める組織。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 授業公開、研究授業を通して、教員同士が意見交流を行い、授業改善を進めます。 (2) ICT機器を活用した授業改善の情報共有を行い、併せて授業環境整備を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒、保護者によるアンケート結果分析 (2) 生徒による授業評価アンケートの結果分析 (3) ふるさと教育週間の授業公開の感想、意見 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 6月に職員研修(MetaMoji, Teams, Forms)を実施した。 7月に授業公開週間を実施し、ICT機器を活用した授業の実践や、各教科による授業研究を行った。 外部企業、行政と連携した授業を実施して、探究活動を推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が主体的に授業に参加できたか。 ②ICT機器の活用によって、授業内容の理解が深まったか。 ③地域社会の実情に触れ、課題解決に取り組めたか。 	<ul style="list-style-type: none"> (A) B C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を使った授業が当たり前に行われるようになり、生徒にとってわかりやすい授業が増えている。 ○タブレットをうまく活用できる生徒が多くなってきた。授業での発表の機会や課題研究のまとめ、インターンシップ報告などプレゼンテーション能力が向上している。 ▲知識や技能を身につけるだけでなく、思考力や判断力を育成していくための授業を中心とした取り組みを工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> A (B) C D 	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台整備されたタブレットを活用した効果的な授業の実践・研究を継続的に行っていく。 併せて、タブレット管理に関する指導を行う。 新学習指導要領の本格実施となり、観点別評価の方法とともに指導法の研究を進める。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年2月10日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果は肯定的評価が高く、よい結果である。ICT機器の活用が進んでいる。 自分の意見を堂々と発表できる雰囲気作りが大切である。 現代はスマホを見れば大体のことは調べられる時代。便利になった反面、考える力を養うことが難しい。様々な意見を統合して最良を導き出すための、思考・判断の力を育成することが大切である。課題に対して様々な意見を出し合い、正解が一つでないこと、他人の意見を否定せず受け入れることも大切である。
